

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 中央 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	31人	算数	31人	理科	31人
第5学年	国語	39人	算数	39人	理科	39人

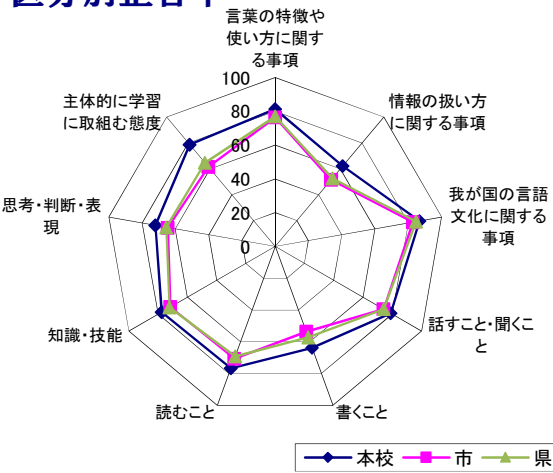
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.3	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	62.2	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	86.7	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	78.9	74.1	74.2
	書くこと	63.9	53.7	57.2
	読むこと	76.7	70.7	69.2
観点	知識・技能	77.6	71.6	72.3
	思考・判断・表現	72.0	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	78.7	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

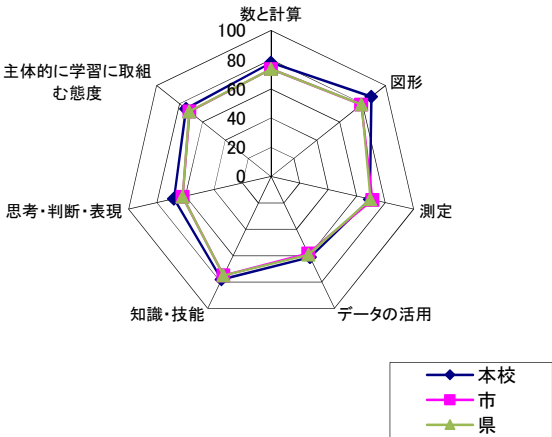
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字を正しく読み書きする設問はそれぞれ平均正答率85.5%、84.4%と漢字を正しく読み書きする力が身につけてきたと考えられる。主語、述語の理解についての設問及び、様子を表す語彙の理解についての設問は共に93.3%の正答率で、基礎的な文章や語彙の理解力が身につけてきたと考えられる。 ●ローマ字で表記されたものを正しく読む設問では、正答率63.3%と県の正答率より5.9ポイント上回ったが、他の設問より低かった。ローマ字を読む、書くことを日常生活に取り入れていくことが課題である。	・引き続き、漢字練習の課題やステップアップテスト、小テストなどを計画的に行ったり、間違った漢字の確認、訂正を確実にしたりすることで漢字の力を定着できるようにする。 ・家庭学習等で読書を推奨し、語彙力を向上できるようにする。 ・ローマ字で表記されている児童に身近な物の名前を読む、書くなどの活動を学習等で取り入れることで、ローマ字を身近に感じられるようにする。
情報の扱い方に関する事項	○国語辞典の使い方に関する設問は正答率80.0%と県の平均を8.5ポイント上回った。辞典についての知識や使い方を理解する力が身に付いてきていると考えられる。 ●文章から中心となる言葉を見つけ出し内容を要約する課題と、文章に関する作者の考えの理解とその理由を記入する課題では、どちらも53.5%と低く、文章から内容を表すキーワードを見つけたり、考えを説明したりする力の育成が課題である。	・今後も継続して国語辞典の使い方を確認したり、意味調べの課題に取り組ませていく。また、タブレットを活用し、意味調べの他に言葉の正しい表記の確認などに使用していく。 ・説明文での学習において、キーワードに着目させる、要約する活動を取り入れ、文章理解力を伸ばしていく。 ・作者の考えやその理由を話し合う場を設定し、内容を理解する力を伸ばしていく。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は86.7%で県の平均を2ポイント、市の平均を3.9ポイント上回っている。漢字のへんやつくりについての知識が身に付いてきていると考えられる。	・漢字のへんやつくりについて継続的に学習することで漢字の成り立ちや意味などを関心をもつことができるようにする。
話すこと・聞くこと	○話し方の工夫について理解する設問では平均正答率86.7%、自分の考えを理由を挙げながら書く設問では83.3%と、話し方の工夫について理解したり、自分の考えを理由をつけて書いたりする力が伸びてきている。 ●話の内容を聞いて理解する設問では、平均正答率66.7%で県の正答率を8ポイント下回っている。話の内容を適切に聞き取り理解することが今後の課題である。	・話し合い活動や1分間スピーチ等で発表者が話した内容をクラス全体もしくは小グループ等で確認する時間を設け、話を聞き取り理解する力を伸ばしていけるようにする。 ・1分間スピーチや係のお知らせなどその場に合った話し方を考えたり、自分の考えを理由をつけて伝えたりする活動を継続することで、相手に分かりやすく伝える力をさらに伸ばしていく。
書くこと	○指定された長さで書く、自分の考えを書く設問では、平均正答率は83%、86%と高く、自分の考えを条件に合わせて書く力が伸びてきている。 ●調べたことを文章にまとめる設問は53%、伝えたいことを明確にするための文章の書き方の理解は20%と低い。調べたことから文章にまとめる力の向上が今後の課題である。	・様々な学習活動の中で、調べたことを簡潔にまとめ、それをもとに相手に分かりやすく伝えるための文章を検討したり、書いたりする時間を設けることで、文章をまとめる力を高めていく。
読むこと	○物語の内容を読み取る設問では、平均正答率91.1%と高く、登場人物の気持ちや場面の様子を読み取る力が付いてきている。 ●説明文の内容を読み取る設問では、平均正答率62.2%と県の正答率を上回っているものの他の設問に比べて低い。情報を理解し、中心となる言葉や文を見つけ要約する力の向上が今後の課題である。	・物語の学習においては、登場人物や場面の状況について話し合う活動を設定し、多面的に読む力を育む指導の充実を図る。 ・説明文の学習において、中心となるキーワードに着目させたり、要約する活動を取り入れることで、段落の内容の理解が深まるような指導を工夫していく。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.9	73.5	73.6
	図形	87.8	79.0	79.1
	測定	69.3	71.1	69.8
	データの活用	61.1	58.4	59.2
観点	知識・技能	78.1	75.0	75.0
	思考・判断・表現	68.1	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	74.3	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

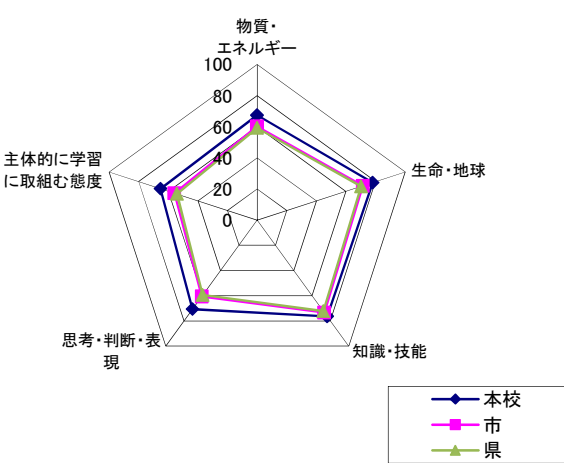
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市・県を4ポイント以上上回っている。特に、わり算の計算や分数の数直線上での表し方については高い正答率となり、県を10ポイント以上上回り、学習内容の定着化が図られている。 ●かけ算の正答率が県より5ポイント以上下回っている。けた数が多いほど正答率は低い。	・習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図るとともに、家庭学習や朝の学習の時間を活用してくり返し問題に取り組み、再度見直す時間を作ることで、計算力の向上に努める。
図形	○正三角形の作図は、県の平均正答率を2ポイント程度上回り、さらに、円と球の問題では、県を10ポイント以上上回っていて、理解が定着化している。	・朝の学習や家庭学習を活用し、三角形を描く作業を通して、コンパスの扱い方に慣れることで、技能の正確性を高めていく。
測定	○ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求める問題については11.6ポイント、はかりの目盛りを読み取り、果物の重さを求める問題についても5.5ポイント、県の平均正答率を上回っている。 ●重さの単位の前にkがつくと、もとの単位の1000倍になることを説明している問題では、正答率が36.7%と低く県の平均正答率を20ポイント近く下回った。この正答率により、測定領域全体が市・県の平均正答率を下回る要因となった。	・重さの単位換算については、もう一度復習するとともに、さらに理科など他教科の学習や日常生活の中でも単位換算に触れることで、理解の定着化を図っていく。
データの活用	○棒グラフの1目盛りの大きさに着目して間違いを指摘する問題では、県の平均正答率を14ポイント近く上回っている。また、複数の棒グラフを組み合わせた読み取りも3.5ポイント上回っている。 ●棒グラフでは読み取れないことを選択する問題は、県の平均正答率を11.2ポイント下回り、50%を切っている。	・棒グラフから様々な情報を正確に読み取り、それを基に分かったことや考えたことを言葉に表す学習を、継続的かつ日常的に実施していくことで、定着化を図る。

宇都宮市立中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.4	60.2	59.2
	生命・地球	78.1	71.3	70.3
観点	知識・技能	76.4	73.4	72.3
	思考・判断・表現	70.6	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	65.3	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は、市より7.2ポイント、県より8.2ポイント上回っている。特に、磁石のどちらがN極かS極なのかを確かめる方法の設問では、県の正答率を20.9ポイント上回り、磁石の極を確かめる方法がよく理解できている。また、量の多い飲み物にペットボトルが使用される記述では、県より13.5ポイント高く実験の結果から推測し、説明することができている。 ●磁石に付く物と付かない物を分類する問題に課題があり、県の正答率より7.5ポイント低く、磁石に付く物と付かない物の理解が不十分である。また、銀のゼムクリップをアルミニウムはくにつけたときの豆電球が点くかどうかの設問では、県より2.4ポイント下回っている。回路を理解し、豆電球の明かりの点き方の推測に課題が見られる。	・基礎的な用語を丁寧におさえ、知識の定着を図る。 ・課題に対する予想や実験結果などを基に、それを分析・考察する学習活動を効果的に設定する。そして、課題に対する知識・技能を深め、それらを応用した思考・判断・表現の育成を図る。 ・物質やエネルギーの変化が分かりやすくなるように、実験の手順を丁寧に確認してから実験を始める。また、実験の手順や結果を分かりやすくまとめ、知識の定着が図られるよう指導する。 ・生活と結び付けた実験方法と分析・考察の仕方を指導する。 ・プリントやタブレットを活用した復習の時間の確保をする。特に、実験の際に実験結果や特徴、気付きを図や絵で記録させ、理科の見方・考え方を働かせて「考える」活動の工夫を図る。
生命・地球	○平均正答率は、市より6.8ポイント、県より7.8ポイント上回っている。特に、モンシロチョウの成虫がキャベツの葉に卵を生む理由の記述の問題に関しては、県の正答率を20.8ポイント上回っており、幼虫の食べ物がキャベツの葉であることを理由に説明することができている。知識を基に、考えを記述する問題がよくできている。 ●虫眼鏡を使うときに気を付けることとして、近づいたり触ったりしてはいけない生物を選択する設問では、県の正答率の13.9ポイント下回っており、野外の観察で近づいてはいけないとげや毒のある生物への理解が不十分である。これらから、自然事象についての知識・理解の低さに課題が見られる。	・基礎的な用語を丁寧におさえ、知識の定着を図る。 ・観察の技能向上のため、身近な自然に触れ合う機会を多く設ける。体験で得た疑問や発見、気付きを基に、自然事象に対する興味関心を高め、自然生物の多様性についても理解できるように指導する。 ・動植物の育ち方について、実際に観察できる時期と学習できる時期のずれが生じてしまうこともあるため、写真や動画なども活用し、動植物の育ち方について正確な知識の定着を図る。 ・授業の中で、一人一人が実際に観察・実験をする活動を十分に確保し、タブレットを適宜有効活用して観察・実験の技能の定着を図っていく。実験結果を基に考察する時間を多く設定し、思考力や主体的に学習に取り組む態度を育んでいく。

宇都宮市立中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童が82.8%と市の平均より6.2%上回っている。その結果を受けてか「授業を集中して受けている」では市の平均を24.2ポイント、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」では市の平均を19.1ポイント上回った。この結果から、学習に対する意欲が高いことが分かる。これからは、日々の学習機会を大切にして、一人一人の学力の向上を図っていききたい。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」と回答した児童が62.1%と市の平均より18.4%上回った。今後も児童一人一人に向き合い、分かりやすい授業を心がけるとともに、質問しやすい雰囲気 of 学級経営を行っていききたい。

○「人と話すことは楽しい」と回答した児童が89.7%と市の平均を10.1ポイント上回った。また、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した児童が55.2%と市の平均を16.6ポイント上回った。話すことが好きな児童が多いことが分かったので、今後は話し合って課題を解決する機会を多く取り入れ、児童の意欲を高める学習活動を行っていききたい。

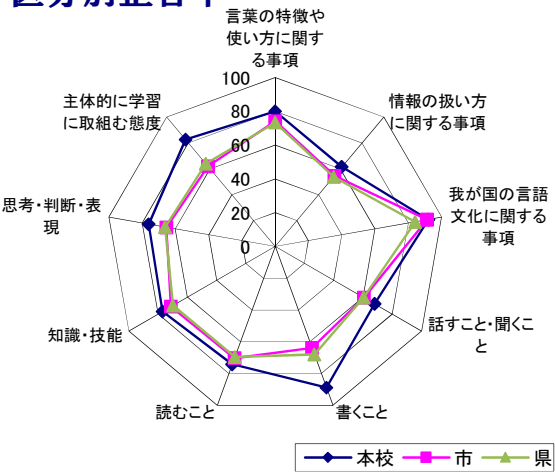
●「次の教科などの学習は好きですか。社会」と回答した児童が27.6%と市の平均より3.9ポイント下回っている。昨年度コロナ禍ということもあり、ほとんどの校外学習が実施できなかったことが大きな原因と考えられる。日々の授業の中で、知識を身に付ける学習だけにならぬよう、児童が楽しく学ぶことができるような工夫をしていききたい。

●「1か月に何さつくらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)。」の質問に、1～2冊と答えた児童が市の平均を8.9%も上回った。また、「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)。」の質問には、10分より少ないと回答している児童が34.5%と市の平均を18.3ポイントも上回った。週末の宿題に読書を取り入れ、本を読む機会を増やすとともに、おすすめの本を示したり、児童が読みたい本を読めるような工夫をしたりしていききたい。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.0	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	61.4	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	92.1	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	67.9	60.6	60.4
	書くこと	88.8	63.8	68.0
	読むこと	74.1	70.4	69.6
観点	知識・技能	76.9	71.3	69.9
	思考・判断・表現	76.0	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	82.6	61.9	64.0



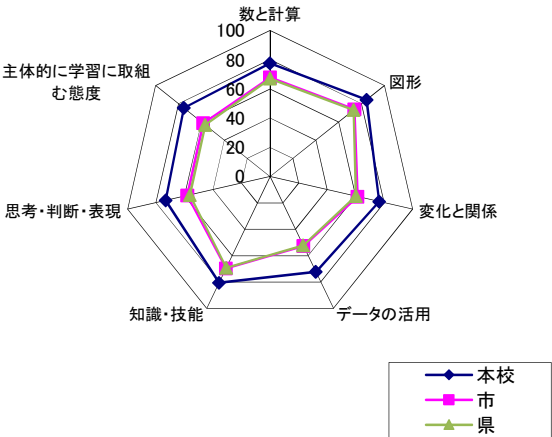
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率が県より6.7ポイント、市より5.8ポイント上回っている。特に漢字の書きについては、県平均を10ポイント以上上回っている設問もあったことから基礎的な力が定着している。 ●文の連用修飾語についての問題では、平均正答率が42.1%と低かった。文の構成要素や修飾語についての理解に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の小テストやステップアップテスト等を活用した復習やデジタル教科書のコンテンツを活用した予習に取り組むことで漢字の力の向上を目指すとともに知的好奇心の醸成を図る。 ・文の構成要素への理解を深めるために、教科書の問題に加えてAI型ドリルやプリントを活用し、多くの問題に取り組ませ、理解を確実なものにしていきたい。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率が県より7.6ポイント、市より6.7ポイント上回っている。資料を読み取って理由や事例を挙げながら説明する記述問題では、県の平均を15.6ポイントも上回っている。	・説明的文章や文学的文章の学習の際には、教科書の本文や資料等を読み取って記述する活動を充実させていきたい。
我が国の言語文化にに関する事項	○平均正答率が県より7.9ポイント、市より0.9ポイント上回っている。	・ことわざ等の言語文化を題材とした単元の学習の際には、図書やインターネットを活用し、児童の知識を増やしていきたい。
話すこと・聞くこと	○平均正答率が県より7.5ポイント、市より7.3ポイント上回っている。特に話合いの内容を司会者としてまとめる設問では、県の平均を15.7ポイントも上回っており、話の中心に気を付けたり、話し方の工夫を意識したりして聞く力が伸びていると考えられる。	・学級活動での話合いや他教科の小グループでの話合い活動の中で友達の考えを聞いたり、自分の意見を伝えたりする場面を設定する。そして、話の中心をとらえて聞いたり話したりすることを意識するよう、伝え合う力を伸ばしていく。
書くこと	○平均正答率が県より20.8ポイント、市より25ポイントも上回っている。資料を読み取り、注意点を守って記述する問題では、全ての項目で県の平均を大きく上回っており、条件に沿って文章を書く力が身に付いていると考えられる。	・文の長さや段落構成など、指定された条件に合わせた文章を書いたり入力したりする活動を積極的に取り入れ、様々な場面に対応した書く力の向上を図りたい。
読むこと	○平均正答率が県より4.5ポイント、市より3.7ポイント上回っている。特に、文学的文章を読み、書き抜く設問では、県の平均を14.3ポイントも上回っており、登場人物の気持ちや情景を読み取る力が育ってきている。 ●説明文の段落相互の関係を読み取る設問では、平均正答率が39.5%と低い数値を示し、課題が見られる。	・引き続き、文学的文章においては、叙述をもとに中心人物の心情やその変化をとらえる活動を取り入れることで、読み取る力を育てたい。 ・説明的文章において、文章の構成やキーワードなど、文章の内容を理解するためのポイントを丁寧に指導し、段落相互の関係について理解を深めることができるようにしたい。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.6	67.8	67.0
	図形	84.3	73.9	73.1
	変化と関係	76.5	61.4	60.2
	データの活用	72.4	52.7	52.1
観点	知識・技能	80.6	69.7	69.2
	思考・判断・表現	73.3	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	75.5	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

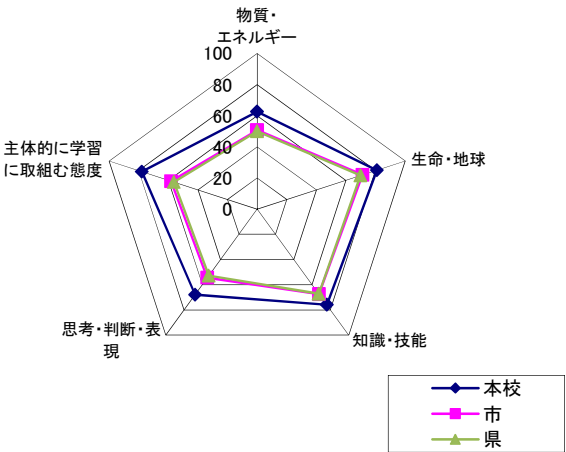
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●本校の平均正答率は77.6%で、市や県の平均よりも10ポイント上回っている。特に、数直線上に示された分数を読み取る設問の平均正答率は89.7%で、県の平均より12ポイント高い。分数の概念や大小について理解が定着している。 ●分数の概念については定着しているものの帯分数の同分母分数の計算の設問の平均正答率は、61.5%で、県の平均よりも約2ポイント低く、帯分数の足し算の計算で課題が見られる。	・引き続き、学習活動の中で図や数直線を活用し数の大きさや関係を視覚的に捉えさせていく。 ・分数の計算のやり方を図や数直線など視覚的な支援により、イメージさせやすくしたり多くの問題に取り組ませたりして定着を図る。
図形	○本校の平均正答率は、84.3%で、市や平均よりも11ポイント上回っている。特に、図形の作図では100%と全員が理解してひし形の作図ができていた。図形の作図技能が身に付いている。 ●分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取り方の問題では、本校の平均正答率は、79.5%で、県の正答率よりも1ポイント低かった。分度器の使い方に課題が見られる。	・引き続き、図形の特徴、性質、きまりを押さえながら、問題に取り組ませていく。 ・分度器の使い方についての理解が不十分であると考えられるので、作図をするときに分度器の目盛りの読み方や使い方を復習しながら定着を図る。
変化と関係	○本校の平均正答率は76.5%で、市や県の平均よりも15ポイント上回っている。特に、伴って変わる2つの数量の関係を表す設問の平均正答率は71.8%で、県の平均より34ポイント高い。数量の変化の関係についての理解が定着している。 ●数量の関係を、割合を使って説明する設問の平均正答率は、県の正答率を上回っているが、61.5%と低い。割合を言葉で表す問題で課題が見られる。	・学習活動の中で、言葉と図や式を関連付けて考える活動を取り入れていく。 ・割合を示す表現の中から、基準量や比較量を明確に捉えさせ、筋道を立てて考えたり、問題に取り組ませたりして定着を図る。
データの活用	○本校の平均正答率は72.4%で、市や県の平均よりもおよそ20ポイント上回っている。特に、二次元表を読み取る設問の平均正答率は、74.4%で、県の平均より26ポイント高い。二次元表の読み取りについての理解が定着している。 ●2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する設問では、県の正答率を20ポイント以上も上回っているが、53.8%であった。自分の言葉で説明し、課題解決を図っていく問題に課題が見られる。	・折れ線グラフから様々な情報を正確に読み取り、それを基に分かったことや考えたことを言葉に表す学習を、継続かつ日常的に実施していくことで、定着化を図る。

宇都宮市立中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.6	50.8	50.0
	生命・地球	80.9	71.1	69.8
観点	知識・技能	76.0	67.6	67.2
	思考・判断・表現	67.9	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	77.9	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は県・市の平均よりも11ポイント以上上回る結果となっていた。「水のすがた」に関する設問で、ペットボトルの容器などに水を入れたまま凍らせると容器が壊れることがある理由を、水の性質をもとに説明する問題は、76.9%の正答率だった。水を冷やし続けたときの変化について、実験結果から水の温度、様子、体積にポイントをおいて考察し表現する活動を十分に確保したことで、学びが確実なものになったと考える。	・今後も、できる限り実験用具を用意し、児童がそれらを扱いながら主体的に活動し、課題を追求し学びを深めていけるように努める。 ・実験を行って得られた結果について、ペアやグループ、クラスでの意見の交換の時間を充実させたり、振り返りの時間等に自分の言葉でまとめたりする活動を大切にし、理解を確実なものにできるようにしていく。
生命・地球	○平均正答率は県の平均よりも11.1ポイント上回る結果となっていた。「天気のようにすと気温」に関する設問で、1日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断し、その理由を説明する問題は、84.6%の正答率だった。1日の気温の変化のしかたを調べ、測定した気温などの結果をまとめる活動を十分に確保したことで、学びが確実なものになったと考える。	・児童が対象である自然の事物・現象に意欲を高め、主体的に追求していくことができるように、自然の事物・現象の提示の仕方を工夫していく。また、主体的な追求を意識させるためにははっきりとめあてをもって授業に取り組ませるようにする。

宇都宮市立中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の肯定回答率が76.9%で県や市より20ポイント以上も上回った。一人一台端末の導入により、積極的に活用してきた成果だと考える。情報モラルに気を付けながら、必要な情報を素早く調べ、集める力を伸ばせるような指導をしてきたい。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」の肯定回答率が県や市の平均を上回った。学校全体で取り組んでいる、主体的で深い学びの実現に向けた授業の流れが教員間でも児童間でも定着している成果の表れだと考える。今後も継続して指導にあたりたい。

○●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくや家庭教師もふくむ)」では1時間以上の回答をした児童が74.4%で県や市より10ポイント以上上回った。児童の実態に合った宿題や自主学習を課題として与えてきた成果だと考えられる。一方、「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定回答率は43.5%と市・県の平均を10ポイント以上下回っていた。これらのことから家庭学習が主に復習中心になっていることが分かりますので、今後は児童の力に応じて予習をすることも勧め、自主学習の内容を充実させられるような指導に努めていきたい。

●「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」の肯定的回答率は100%だったものの、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定的回答率は43.6%と市・県の平均を15ポイント以上下回った。帰りの会等で児童同士が認め合う場面を設定したり、委員会や行事等で高学年として学校のために働く機会を活用したりすることで自分が周囲から必要とされていることに気付かせ、自信と自己肯定感を高められるような支援をしていきたい。

宇都宮市立中央小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	児童が「知りたい」「解決したい」という探求的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。	「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」と答えた児童の割合は、4年生では34.5%、5年生では33.3%と市や県を上回っている。
考えを広げ深めるための学び合い活動の工夫	対話的な学び合いのための活動の設定を工夫して、友達との考えの交流から自分の考えを広げたり、深めたりできるような指導を目指している。 また、学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」についての肯定的回答の割合は、4年生では82.7%、5年生では82.6%と市や県を上回っている。
基礎的な学習内容の定着のための取組	全教員による朝の学習支援、定期的なステップアップテストの実施、AIドリルの活用などにより、学習内容の定着を図っている。	国語の「基礎・基本」についての平均正答率は、4年生では80.4%、5年生では79.4%で市や県の平均を上回っている。また、算数の「基礎・基本」についての平均正答率は、4年生で80.7%、5年生では81.8%で市や県の平均を上回っている。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	全学年「家庭学習マイプラン」による家庭学習の記録を行い、家庭での学習意欲を高めたり、自主的に学習に取り組む習慣をつけられるように指導している。 また、「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。	「家で自分で計画を立てて勉強している」についての肯定的回答の割合は、4年生では62%で市や県を下回っているが、5年生では79.5%と市や県を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
児童質問紙の結果から、4,5年生とも市や県と比べて一か月に5冊以上読むと回答した割合が低く、読書量が少ないことがわかる。	読書習慣の定着	週末の宿題に読書を取り入れ「家読」を進めるとともに、本を読む機会を増やすために、おすすめの本を示したり、児童が読みたい本を読めるような工夫をしたりしていきたい。